

課題解決のための調査・検討シート ～環境部会～

◆ 全体テーマ 心が響きあう地域づくり

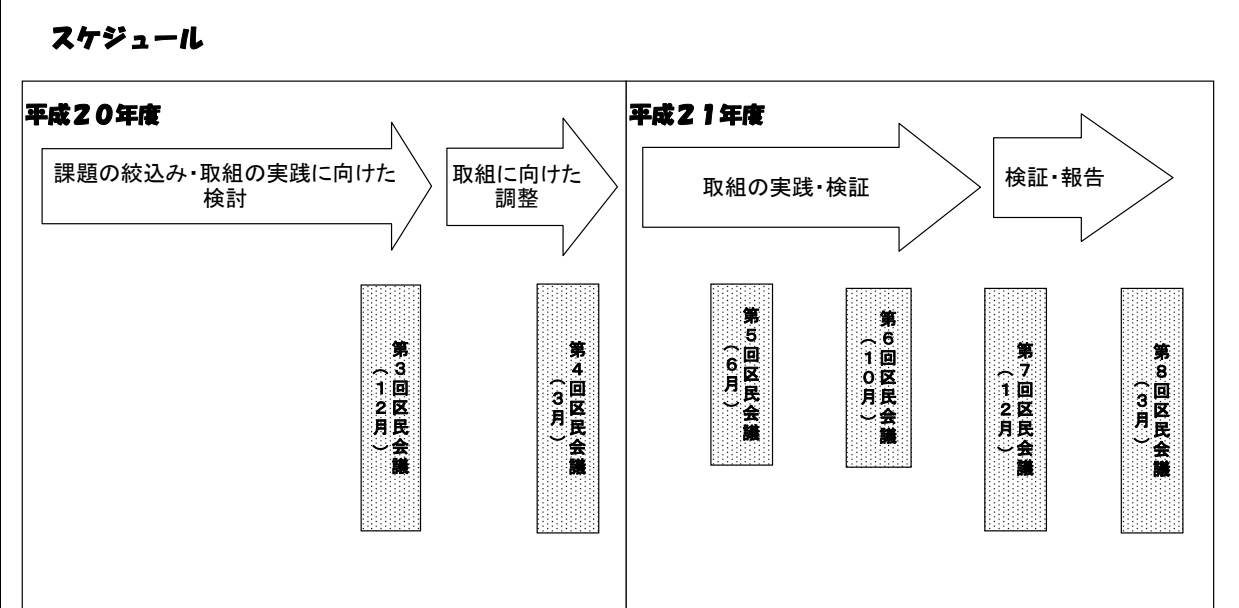
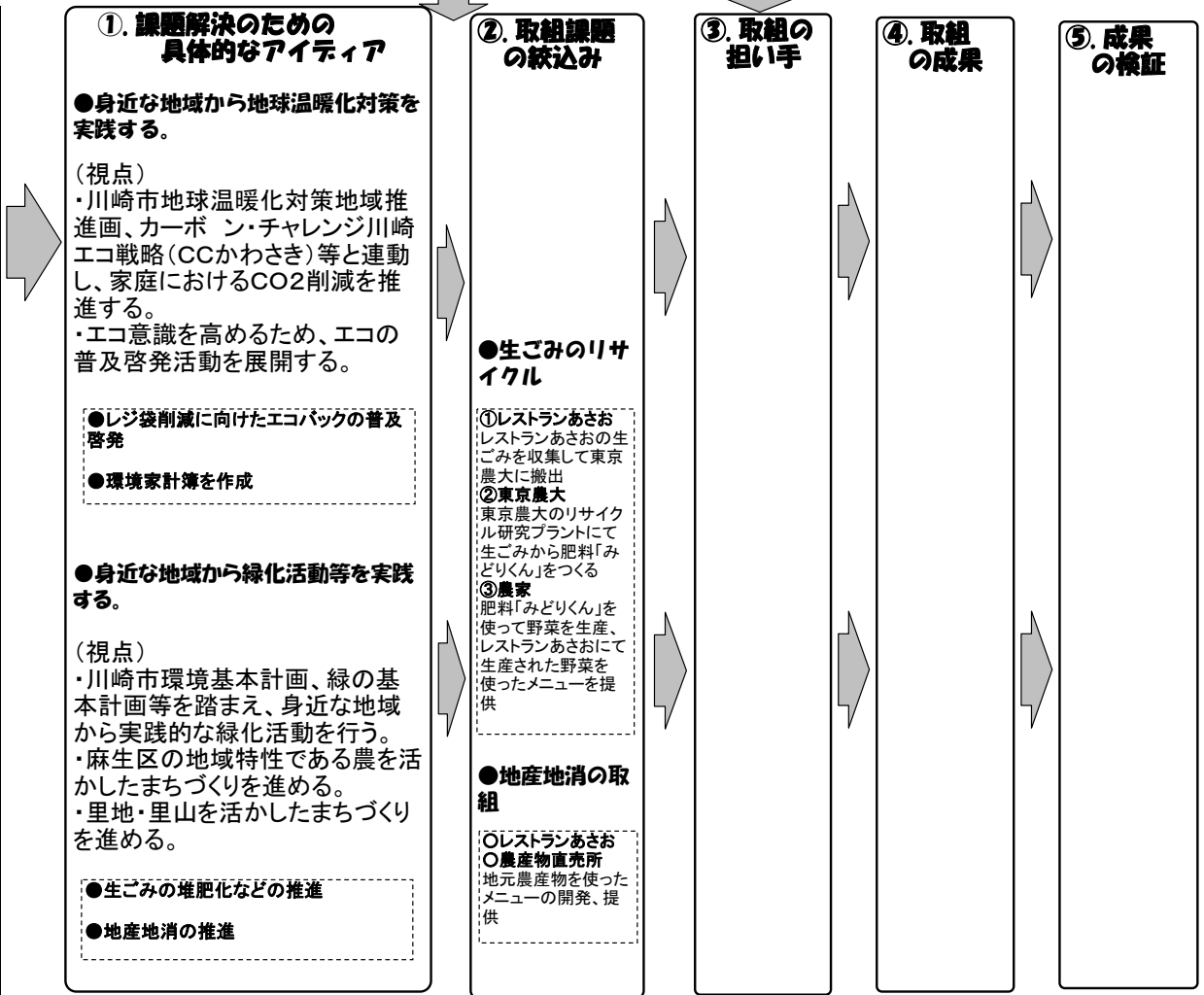
【課題】エコのまちあさおの推進～持続可能な地域社会の創造を目指して～（身近な地域から地球温暖化対策、緑化活動等を実践）

課題内容	課題解決策の検討	関連事業・関連活動・現状等
① 関連団体との連携、地域住民との交流	活動拠点として、環境館設立などを検討	●麻生区における市民活動の拠点施設として、平成19年4月に市民交流館やまゆりがオープン。 ・リサイクルパークあさお整備事業(環境局) ・環境総合研究所の整備に向けた検討(環境局)
② 減量指導員・環境リーダーの効果的な活動	市民共同発電所設置等の促進、自然エネルギーを利用しやすい環境整備 レジ袋の有料化の促進(レジ袋を使わずに済むライフスタイルの提案実践など)	・(太陽光)麻生区役所・柿生小・はるひ野小設置を、(風力)はるひ野小 ・住宅用の太陽光発電施設補助事業(1kWあたり3万円、上限12万円)(環境局) ・環境リーダー育成講座、廃棄物減量指導員(環境局) ・小田急OX栗平店、コープかながわでレジ袋有料化を実施。(小田急商事は緑化基金に寄付)(環境局) ・マルチ溝口でレジ袋削減に伴う環境保全活動。(高津区と多摩川エコミュージアムに寄付)(高津区)
③ 農業、都市緑地の保全と復元、こみの削減とリサイクル、雨水利用など	公共施設への太陽光発電設置と雨水利用などの検討	・身近な公共施設での再生可能エネルギー(太陽光発電設備、ソーラー街路灯)の導入に向けた調査を実施予定(環境局)
④ 「CCかわさき」と連動したまちづくり	「エコのまち麻生」エコ憲章の検討。 「エコのまち麻生」を目指すネットワークの検討。	・地球温暖化防止条例の制定に向けた検討(環境局) ・地球温暖化対策地域推進計画の策定に向けた検討(環境局) ●「エコのまち麻生」をめざすまちづくりフォーラム開催(麻生区)
⑤ 小中学校での環境体験学習などの促進		●自然エネルギー活用促進事業実行委員会が区内小学校への出前授業を展開(麻生区) ●4大学連携事業 地球温暖化防止をテーマに子ども向けミュージカルを実施(麻生区)
⑥ 家庭での緑化推進、CO2削減	家庭での緑化推進、CO2削減を具体的に検討	●ゴーヤーのカーテン大作戦(各区) ・エコドライブの推進(環境局) ●ハイブリッド公用車の導入(麻生区) ・打ち水大作戦(環境局・川崎区・中原区・多摩区) ・エコウェア(環境局) ・マイバック(環境局・川崎区・幸区・宮前区) ●しんゆり芸術のまちで専修大学生が区内保育園でエコバックづくり(麻生区) ・コンポスト助成制度(環境局)
⑦ 緑地保全、緑化促進	東京都が実施している校庭の芝生化や公園の芝生化	・校庭の芝生化/宮前区土橋小(教育委員会)
⑧ 公園の手入れ	公園を対象とした愛護会づくりの啓発	・麻生区内で81の公園緑地愛護会が維持管理活動を展開(環境局) ・木こりの会 籠口ノ池公園(緑と施設の調和のとれた公園づくり) 化粧面谷公園(公園広場の草刈りなど) まつのき緑地(広場とその周辺斜面の草刈り、樹木の間伐剪定) ・里山ボランティア(早野)
⑨ 緑地保全の検討	里地里山の保全(子どもの遊び場づくり)	●麻生里地・里山保全推進事業(麻生区) ・麻生プレイパークを創る会 自然の遊び場実験(化粧面谷公園、早野聖地公園等) ●遊び場調査/白地図(麻生区) ●麻生区市民健康の森(麻生多摩美の森の会) ・木こりの会 籠口ノ池公園(緑と施設の調和のとれた公園づくり) 化粧面谷公園(公園広場の草刈りなど) まつのき緑地(広場とその周辺斜面の草刈り、樹木の間伐剪定) ・里山ボランティア(早野) ・屋上・壁面緑化への助成及び緑の活動団体への支援(環境局) ●麻生地域づくりの活動資金助成事業(麻生区)
⑩ 食育を通じての地域交流(第1期)	・学校農園を通じた地域づくりを王禅寺小学校でモデル実施 ・区内各小学校にアンケート実施 ・体験農業の関係者、JA関係者 ・王禅寺小学校をモデル校に選定	○学校農園を通じた地域づくりを王禅寺小学校でモデル実施中 10月28日収穫、秋に収穫祭を予定 ・区内全小学校で農業体験学習を実施 ・学校農園(王禅寺、金程、真福寺、虹ヶ丘、白山、柿生、長沢、柿生、栗木台) ・校外農園(王禅寺、岡上、金程、千代ヶ丘、片平)
⑪ 農産物直売所を通じての地域交流(第1期)	・体験農業の関係者、JA関係者 ヒアリング	・地産地消の推進のために、区内産野菜を区役所の食堂でランチメニューとして活用(高津区) ○セレスサモス「情報センター」内にて地域住民との交流事業を展開(消費者向けワークショップ開催) ・料理講習会 夏野菜(7月7日・8日)・冬野菜(12月上旬予定) ・多摩川梨フェア(8月上旬～9月上旬) ・柿フェア(11月上旬～中旬予定) ・シクラメン・パンジーフェア(12月上旬予定)
⑫ 市民農園及び援農を通じての交流(第1期)	・体験農業の関係者、JA関係者 ヒアリング	・JAでは、今年より農業指導の派遣依頼があった場合、JAの指導者や農業従事者を派遣する事業を実施予定

- 【課題選定基準】
1. 緊急性
 2. 必要性
 3. 公平性
 4. 実現性
 5. 協働による取組の可能性
 6. 区民の主体性

- 【担い手の例】
1. 区民
 2. 行政
 3. 区民と行政
 4. その他
町会自治会・商店街連合会など

資料3



環境部会の取組

①地球温暖化の現状と課題

●温室効果ガスの増加(CO2排出構造の変化) 単位：千トン

発生源		1990年	2005年
主な発生源	家庭	1,156.6	1,159.4(1.38)
	業務	742.9	840.8(1.13)
	自家用車	289.0	435(1.51)
	貨物用自動車	485.3	427.5(0.88)
	産業	18,020.8	18,810.8(1.04)
計	22,797.0	23,853.8(1.05)	
人口(1990年を1.00)		1.00	1.13

- 緑地や農地の減少
- 平均気温の上昇
- 増加する集中豪雨

②行政及び区内団体の協力による

これまでの取組

●区役所屋上に太陽光パネルを設置

●自然エネルギー活用促進実行委員会

- ・出前授業、連続講座
- 施設見学会
- おひさまと遊ぼう開催
- ニュースの発行

●講演会(講師 末吉竹二郎 川崎市参与)

●4大学連携事業

- ・子ども向け地球環境ミュージカル開催
- 「もぐもぐマンとザンパンせいじん」

●ゴーヤのカーテン大作戦

- グリーン電力購入
- ハイブリット車の導入
- エコオフィスの取組
- 里地里山フォーラム
- 花いっぱい事業
- エコウェアの実施



③課題解決に向けた考え方

③-1

身近な地域から温暖化対策を実践

- ・川崎市地球温暖化対策地域推進計画、カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略(CCかわさき)等と連動し、家庭におけるCO2削減を推進する。
- ・エコ意識を高めるため、エコの普及啓発活動を展開する。

麻生区では、区役所屋上に設置した太陽光発電設備を活用し、自然エネルギーの活用促進、省エネルギーを目的として実行委員会を立ち上げ、区民と行政が協働し、普及啓発活動を展開している。

③-2

身近な地域から緑化活動等を実践

- ・川崎市環境基本計画、緑の基本計画等を踏まえ、身近な地域から実践的な緑化活動を行う。
- ・麻生区の地域特性である農を活かしたまちづくりを進める。
- ・里地・里山を活かしたまちづくりを進める。

麻生区では、里地・里山フォーラムや市民健康の森の活動、あさお生きごみ隊や環境を考え行動する会による生ごみリサイクルなどの活動が行われている。

④区民会議としてのプロジェクト(案)

④-1 レジ袋削減に向けたエコバックの普及啓発

- 検討課題
- プロジェクトの担い手
 - 進め方
 - 関係機関との調整



④-2 環境家計簿の作成

- 検討課題
- プロジェクトの担い手
 - 進め方
 - 関係機関との調整



④-3 生ごみのリサイクルの推進

- 検討課題
- プロジェクトの担い手
 - 進め方
 - 関係機関との調整



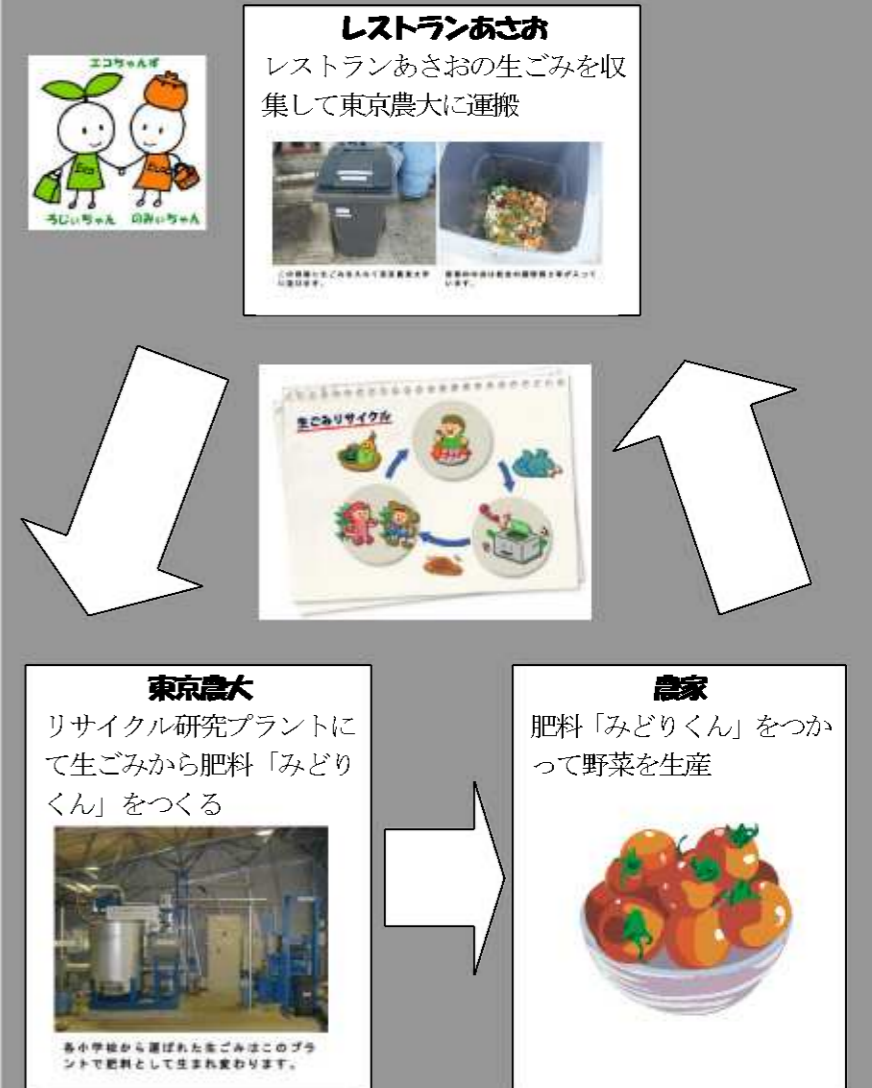
④-4 地産地消の推進

- 検討課題
- プロジェクトの担い手
 - 進め方
 - 関係機関との調整



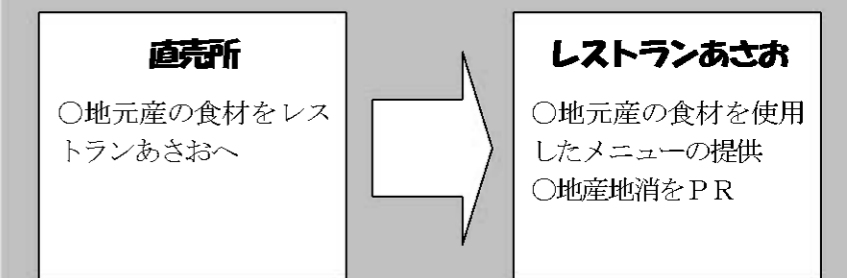
●生ごみのリサイクルと地産地消の具体的な取組

(担い手: レストランあさお、東京農大、農家、行政)



●地産地消の具体的な取組

(担い手: レストランあさお、直売所)



「生ごみのリサイクルの推進」の取組経過について

農家との打合せ

日 時 平成 21 年 1 月 30 日（金）

出席者 井上氏（古沢在住）、伊藤部会長、山崎副部会長、事務局（荻原、重森）

意見交換

- ・夏野菜 なす・トマト・きゅうり
- ・冬野菜 大根・にんじん
- ・実際に「みどりくん」を使用している農家の意見をヒアリングしたい。
- ・肥料を「みどりくん」のみに限定して耕作するのは困難。
- ・循環型（生ゴミ・地産地消）の事業に参加するのはよいが、どのくらい肥料が提供されて、どのくらい野菜を供給できるか不明。
- ・必要肥料 20袋×20kg 詰め / 1反 （現在は1t / 1反程度）
- ・肥料は作付けを考慮すると3月か4月には必要になる。

レストランあさおとの打合せ

日 時 平成 21 年 1 月 22 日（木）、平成 21 年 2 月 4 日（水）

出席者 環境局廃棄物政策担当、多摩生活環境事業所

事務局（荻原、重森、稲葉）

意見交換

- ・実施期間 環境局のモデル事業（平成 21 年度まで）に参加する。
- ・回収日 平日の翌日（火～土）の午前中 学校の長期休暇は未回収。
- ・回収場所 現在の区役所のゴミ置き場。
- ・リサイクル容器に生ごみ（10kg程度）を直接投入する。
- ・みどりくんの提供は10袋（1袋20kg）くらい。

東京農業大学周辺の農家へのヒアリング/フォーラムへの参加

日 時 平成 21 年 3 月 2 日（月）14：00～17：30

場 所 岡庭氏耕作地（世田谷区桜丘）、東京農大会議室

出席者 じゅんかんチャレンジ桜丘推進協議会 大江副会長

農家 岡庭氏、直井氏

区民会議 西谷委員長、伊藤部会長、天野委員

松下氏（東百合丘在住 / 農家）

事務局 荻原、重森、稲葉

農家へのヒアリング

- ・ 20kg × 4 袋 / 100 m² (岡庭氏) 20kg × 2.5 袋 / 300 ~ 400 坪 (直井氏)
- ・ みどりくんを畑に投入後 2 ~ 3 週間養生する。(カビが生えることがある。)
- ・ みどりくんを投入すれば、その後は追肥をしなかった。(直井氏)
- ・ 途中で追肥をした。(岡庭氏)
- ・ 3月、9月に種まきを行っている。
- ・ みどりくんを使うと最初は収穫量が多かった。後半は少し落ちた。(収穫量)

じゅんかんチャレンジフォーラムへの参加

- ・ みどりくんは 2 時間で製造できる。(堆肥のように広い場所も不要)
- ・ 成分はチッソ : リン酸 : カリ = 4 : 1 : 1
- ・ 過リン酸の土壌の改善につながる。
- ・ 収穫量は落ちるがうま味は増加する。(ビタミン C 増加、硝酸減少)
- ・ 尿素添加型、搾油型がある。
- ・ 稲作、果樹でも使用できている例がある。
- ・ 桜新町商店街では生ごみを乾燥した後に農大へ持ち込んで尿素を添加して製造している。
- ・ 京王百貨店(新宿)では同様のプラントが屋上にあり、千葉県内の農家が使用している。
農家で生産した野菜は京王百貨店の地下で販売している。
- ・ 京王百貨店レストラン街の残飯の一部を利用。(全ての残飯を乾燥する。)

レストランあさおの生ごみを東京農大へ

日時 平成 21 年 3 月 3 日 (火) ~

レストランあさおの生ごみを東京農大に搬出開始。「みどりくん」の製造。

「みどりくん」が東京農大から区役所へ

日時 平成 21 年 3 月 5 日 (木)

東京農大から「みどりくん」が多摩生活環境事業所を経由して区役所に届く。

みどりくん (1 袋 20 キロ入り) × 20 袋

「みどりくん」を区役所から農家へ

日時 平成 21 年 3 月 9 日 (月)

出席者 井上氏 (古沢在住)、西谷委員長、山崎副部長、事務局 (荻原、重森)

「みどりくん」を区役所から古沢の井上氏宅に届ける。

みどりくん (1 袋 20 キロ入り) × 20 袋